

IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9 Warehouse Pack、バージョン 1.3.0.3

日付:2005 年 7 月 1 日

5698-TEC

Licensed Materials - Property of IBM (R)

(C) Copyright IBM Corp. 2002, 2005. All Rights Reserved.

目次

- 1.0 このフィックスパックについて
 - 1.1 フィックスパック 1.3.0.0-TIV-TEC_WEP-FP0001 機能拡張
 - 1.2 注意事項
 - 1.3 このフィックスパックによって修正された APAR
 - 1.4 既知の制限、問題、および次善策
- 2.0 インストールと構成
 - 2.1 前提条件
 - 2.2 インストールの説明
- 3.0 プルーニング
- 4.0 このフィックスパックで追加または置換されたファイル
- 5.0 カスタマー・サポートへの連絡
- 6.0 特記事項および商標

1.0 このフィックスパックについて

1.1 フィックスパック 1.3.0.0-TIV-TEC_WEP-FP0001 機能拡張

EC2 Warehouse Enablement Pack によって、利用者は拡張属性および関連データを選択して、それを Tivoli (R) Data Warehouse Central Data Warehouse およびデータマートに移動することができるようになります。wtdwfilter ユーティリティーは、tec_t_exts_filter という新規フィルター・テーブルを作成できるよう機能拡張されています。拡張属性の新規機能に関する詳細情報および wtdwfilter ユーティリティーの実行に関する情報については、このフィックスパックの /doc ディレクトリーにある文書「Tivoli Enterprise Console Version 3.9 Warehouse Pack, Version 1.3.0.3 Implementation Guide for the Tivoli Data Warehouse, Version 1.2.0.2」を参照してください。

1.2 注意事項

Sybase ソース・データベースで ETL を実行している際、「CREATE TABLE コマンドが <database name> データベースのマルチステートメント・トランザクション内で許可されていない」というエラーを発生させる場合、以下のことを行ってください。

「sysadmin」というユーザー ID で Sybase データベースにログインし、以下のコマンド

を実行してください。

```
sp_dboption <database name>,"ddl in tran", true checkpoint
```

1.3 このフィックスパックによって修正された APAR

APAR IY59888

症状:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、イベント・メッセージが 254 を超える文字を含む場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、254 を超える文字を含むイベント・メッセージを処理する場合に失敗しなくなります。

APAR IY59889

症状:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、イベント・メッセージが「復帰」または「改行」文字を含む場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform が「復帰」または「改行」文字を含むイベント・メッセージを処理する場合に失敗しなくなります。

APAR IY62270

症状:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、イベントの基本属性値が NULL 値を含む場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、イベントの基本属性値が NULL 値を含む場合に失敗しなくなります。

APAR IY63436

症状:ステップ EC2_c05_s020_src_extract は、Sybase 12.0 Tivoli Enterprise Console ソース・データベースからイベントを取り出す場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、Sybase 12.0 TEC ソース・データベースからイベントを正常に取り出せるようになります。

APAR IY64619

症状:ステップ EC2_c05_s020_src_extract は、Oracle Tivoli Enterprise Console ソース・データベース (パッチ 3.9-TEC-0027LA 適用済み) からイベントを取り出す場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、Oracle Tivoli Enterprise Console ソース・データベースからイベントを取り出す場合に失敗しなくなります。

APAR IY65527

症状:ステップ EC2_c05_s040_src_load step は、100 000 を超えるイベントを処理する場合に停止します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s040_src_load step は、100 000 を超えるイベントを処理する場合に正常に完了することになります。

APAR IY66848

症状:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、イベントの基本属性値が「復帰」または「改行」文字を含む場合に失敗します。

解決内容:ステップ EC2_c05_s030_src_transform は、「復帰」または「改行」文字を含むイベントの基本属性値を処理する場合に失敗しなくなります。

障害 172377

症状:EC2 ステージング表は、stg_prefix 命名規則に従っていません。

解決内容:すべての EC2 ステージング表は、stg_prefix 命名規則に従っています。

障害 172378

症状:EC2_m05_s010_mart_initialization step ステージング表は、stg_prefix 命名規則に従っていません。

解決内容:EC2_m05_s010_mart_initialization step ステージング表は、stg_prefix 命名規則に従っています。

障害 172379

症状:EC2 データマート・プルーニング・コードは、新規 EC2_m010_s010_ETL2_Process 処理ステップに置く必要があります。

解決内容:EC2 データマート・プルーニング・コードは、新規 EC2_m010_s010_ETL2_Process 処理ステップに置かれました。

障害 175514

症状:EC2_m10_s040_mart_load ステップは、更新されたイベント・メッセージの属性値を EC2 データマートにロードしません。

解決内容:EC2_m10_s040_mart_load ステップは、更新されたイベント・メッセージの属性値を EC2 データマートに正しくロードします。

障害 175999

症状:EC2_c05_s020_src_extract ステップは、イベント・ホスト名属性が 225 を超える文字を含む場合に失敗します。

解決内容:EC2_c05_s020_src_extract は、225 を超える文字を含むイベント・ホスト名属性を取り出します。

障害: 177205

症状:WEP 1.3.0 FP01 を適用すると、ETL1 処理の既存スケジュールを除去します。

解決内容:これは既知の制限であり、下方のセクション 1.4 に文書化されています。

障害: 177328

症状:CDWEX8087E A 一般 SQL エラーが Sybase 12.5 に対して発生しました。

解決内容:このフィックスパックの適用後、データを Sybase 12.5 で検索できます。

1.4 既知の制限、問題、および次善策

障害 177205

問題点:WEP 1.3.0 フィックスパック 01 のインストールによって、EC2_c05_ETL1_Process 処理を実行する既存のスケジュールが除去されます。

解決策:WEP 1.3.0 フィックスパック 01 をインストールする前に、EC2_c05_ETL1_Process 処理のために定義されたスケジュールを記録し、WEP 1.3.0 フィックスパック 01 の適用後、EC2_c05_ETL1_Process 処理を再スケジュールします。

障害 177268

問題点:WEP 1.3.0 フィックスパック 01 のインストールは、結果として、EC2_c05_ETL1_Process および EC2_m10_ETL2_Process 処理ステップが実動モードに置かれることとなります。

次善策:EC2_c05_s010_src_pre_extract ステップをスケジュールし、実行する前に、EC2_m05_s010_mart_initialization ステップが必ず実行されているようにします。

障害: 177794

問題点:エクスポートされた PDF および RPT レポート・ファイル「Top Ten Event Classes by Status and Severity」の日本語版で、「Click here for subreport (サブレポートはここをクリック)」という言葉は、誤った形式であるか、さもなければ読み取り不能です。DOC、XLS、および RTF ファイルには影響しません。

障害: 177796

問題点:レポートの日本語版が Microsoft Word またはリッチ・テキスト形式 (RTF) に変換される場合、長いレポートの表題 (2 行) は、正しく表示されません。たとえば、表題は、レポートの本文テキストと比較した場合、あまりにも小さく表示されます。この問題は、2 行のレポート表題を持つ、以下のレポートにも発生します。

- a) イベント・クラス、状況、および重大度によるオーバータイムのイベント数
- b) イベント・クラス、状況、および重大度によるオーバータイムのホスト名 / IP アドレスのイベント数
- c) イベント・クラス、状況、および重大度によるイベントのうち数の多いトップ 10 のホスト名 / IP アドレス
- d) イベント・クラス、状況、および重大度によるイベントのうち数の多いトップ 10 のソース

障害: 177840

制限:レポート「状況および重大度によるトップ 10 のイベント・クラス」は、棒グラフを生成し、クラス EPSILON と ALPHA は同じ数のイベントになりますが、EPSILON が第 1 番目にリストされます。同じことがイベント・クラス KAPPA、IOTA、および GAMMA についても起こります。この制限は、Crystal Enterprise Version 9 に適用されます。

障害: 177936

問題点: マート・データベースに大量のイベント・データが含まれる場合、レポート「イベント・クラス、重大度、および状況のオーバータイム数」を実行し、オプションとしてアスタリスク (*) を選択すると、結果として、以下のエラー・メッセージが表示されます。

サーバーでデータを検索中、エラーがありました。「最大処理時間/最大レコード制限に到達しました」

解決策: このエラー・メッセージは、Crystal Page Server がデフォルトの 20 000 レコードという最大数を戻すことによって表示されます。

このエラー・メッセージを解決するには、Crystal Page Server が Crystal Configuration Manager (CCM) を介して戻すデフォルトのレコード最大数を変更します。

- a. CCM を開いて、Crystal Page Server を停止する。
- b. Crystal Page Server をダブルクリックして、「Crystal Page Server Properties」ウィンドウを表示する。
- c. 「Command」フィールドの既存の値に「-maxdbresultrecords <number>」を追加して、「コマンド」フィールドの既存の値を変更する。ここで <number> は、戻されるレコードの新しい最大制限数です。
最大制限数を使用不可にする場合、「コマンド」フィールド値の後ろに「-maxdbresultrecords 0」と入力します。
- d. 「Crystal Page Server Properties」ウィンドウを閉じて、Crystal Page Server を再始動する。

障害 177975

問題点: すべての EC2 Crystal Reports レポートは、グリニッジ標準時で表示されます。
次善策: この時点では、次善策は入手できません。

障害 177981

問題点: EC2_c05_s040_src_load ステップは、Informix TEC ソース・データベースを含むマルチソース環境では失敗します。
次善策: この時点では、次善策は入手できません。

2.0 インストールと構成

2.1 前提条件

Tivoli Data Warehouse バージョン 1.2、フィックスパック 2
1.3.0.0-TIV-TEC_WEP-0001 IBM Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9
Warehouse Enablement Pack バージョン 1.3.0.0 (旧 3.9.0-TEC-0012)

このフィックスパックによって置き換えられるパッチ
1.3.0.0-TIV-TEC_WEP-LA0002 (旧 3.9.0-TEC-0031LA)
1.3.0.0-TIV-TEC_WEP-LA0003 (旧 3.9.0-TEC-0027LA)

注:すべてのサポートされる Tivoli Data Warehouse 1.2 のインストール構成は、この Warehouse Pack によってサポートされます。

2.2 インストールの説明

文書「Tivoli Data Warehouse バージョン 1.2 のインストールおよび構成 GC88-9328-02」の第 8 章『ウェアハウス使用可能パックのインストールおよびアップグレード』の 330 ページ、『ウェアハウス使用可能パックへのフィックスパックの適用』セクションを参照してください。

wtdwfilter ユーティリティーの実行およびその他のインプリメンテーション関連事項に関する情報については、このフィックスパックのディレクトリー /doc にある「Tivoli Enterprise Console バージョン 3.9 Warehouse Pack、バージョン 1.3.0.3」の文書「Tivoli Data Warehouse インプリメンテーション・ガイド バージョン 1.2.0.2」を参照してください。

3.0 プルーニング

すべての Tivoli Enterprise Console Event Data を Central Data Warehouse Database からプルーニングする

DB2 コマンドのプロンプトから以下の SQL ステートメントを発行して、EC2 プルーニング継続時間値を更新します。

- a. db2 -v "connect to twh_cdw"
- b. db2 -v "update twg.prune_event_ctrl set Event_Age = -1 where MSrc_Cd='EC2'"
- c. db2 "disconnect current"

プルーニング継続時間値を更新後、CDW_c05_s010_Prune_Events ステップを起動して、EC2 イベント・データをすべてプルーニングします。

- a. 「DB2 Data Warehouse Center」ウィンドウのメニューから「Warehouse」->「Work in Progress」とクリックする。「Work in Progress」ウィンドウが表示されます。
- b. 「Work in Progress」ウィンドウの・メニューから「Work in Progress」->「Run New Step」とクリックする。
- c. 「CDW_c05_s010_Prune_Events」をダブルクリックする。
- d. 「OK」をクリックする。

注:CDW_c05_s010_Prune_Events ステップを起動すると、
CDW_c05_Prune_and_Mark_Active_Process プロセスに関連づけられた
CDW_c05_s020_Prune_Msmts、CDW_c05_s030_Mark_Active_MsmtTypes、および
CDW_c05_s040_Update_Offset ステップを結果として実行することにもなります。

CDW_c05_s010_Prune_Events ステップが正常に完了した後、はじめの EC2 プルーニング継続時間値を復元します。

- a. db2 -v "connect to twh_cdw "
- b. db2 -v "update twg.prune_event_ctrl set Event_Age = 600 where MSrc_Cd='EC2'"
- c. db2 "disconnect current"

すべての Tivoli Enterprise Console Event Data を Data Warehouse Database からプルーニングする

DB2 コマンドのプロンプトから以下の SQL ステートメントを発行して、EC2 プルーニング継続時間値を更新します。

- a. db2 -v "connect to twh_mart"
- b. db2 -v "update ec2.prune_mart_control set pmartc_duration = -1 where table_name='EC2.F_EVENT_PIT'"
- c. db2 "disconnect current"

プルーニング継続時間値の更新後、EC2_m10_s050_mart_prune ステップを起動して、EC2 イベント・データをすべてプルーニングします。

- a. 「DB2 Data Warehouse Center」ウィンドウのメニューから「Warehouse」->「Work in Progress」とクリックする。「Work in Progress」ウィンドウが表示されます。
- b. 「Work in Progress」ウィンドウの・メニューから「Work in Progress」->「Run New Step」とクリックする。
- c. 「ec2_m10_s050_mart_prune」をダブルクリックする。
- d. 「OK」をクリックする。

EC2_m10_s050_mart_prune ステップが正常に完了した後、はじめの EC2 プルーニング継続時間値を復元します。

- a. db2 -v "connect to twh_mart"
- b. db2 -v "update ec2.prune_mart_control set pmartc_duration = 10000 where table_name='EC2.F_EVENT_PIT'"
- c. db2 "disconnect current"

EC2 ETL1 および ETL2 抽出コントロール値の再設定

CDW および MART データベースのすべての EC2 イベント・データをプルーニングす

るための、前のステップを正常に実行した後、TEC ソース・データベースに保管された同じイベント・データを ETL 処理で使い果たしたい場合、twg.extract_control テーブルの「抽出コントロール」ウィンドウを再設定します。

DB2 コマンドのプロンプトから、以下の SQL ステートメントを発行して、「EC2 ETL 抽出コントロール」ウィンドウを再設定します。

- a. db2 -v "connect to twh_cdw "
- b. db2 -v "update twg.extract_control set extctl_from_intseq = 0 where extctl_source='TWG.EVENT'"
- c. db2 -v "update twg.extract_control set extctl_to_intseq = 0 where extctl_source='TWG.EVENT'"
- d. db2 -v "update twg.extract_control set extctl_from_intseq = 0 where extctl_source='TWG.EVENTATTR'"
- e. db2 -v "update twg.extract_control set extctl_to_intseq = 0 where extctl_source='TWG.EVENTATTR'"
- f. db2 -v "delete from twg.extract_control where extctl_source='1.tec_t_evt_rep'"
- g. db2 "disconnect current"

注:ステップ f の「1」を別の数字に置き換えることが必要になる可能性があります。

4.0 このフィックスパックで追加または置換されたファイル

```
$TWH_TOPDIR/apps/ec2/<version_number>¥  
/etl/generic/EC2_c05_s020_src_extract.generic  
EC2_c05_s010_src_pre_extract.generic  
EC2_c05_s020_src_extract.generic  
EC2_c05_s030_long_comparison.pl  
EC2_c05_s030_src_transform.generic  
EC2_c05_s040_src_load.generic  
twh_install_props.cfg  
$TWH_TOPDIR/apps/ec2/<version_number>¥  
twh_install_props.cfg  
control/dml/ec2_control_data.generic  
etl/ec2_dwc_data.tag  
etl/generic/EC2_c05_s010_src_pre_extract.generic  
etl/generic/EC2_c05_s020_src_extract.generic  
etl/generic/EC2_c05_s030_comparison.pl  
etl/generic/EC2_c05_s030_long_comparison.pl  
etl/generic/EC2_c05_s030_src_transform.generic  
etl/generic/EC2_c05_s040_src_load.generic  
etl/generic/EC2_m05_s010_mart_initialization.generic  
etl/generic/EC2_m10_s010_mart_pre_extract.generic  
etl/generic/EC2_m10_s020_mart_extract.generic  
etl/generic/EC2_m10_s030_mart_transform.generic  
etl/generic/EC2_m10_s040_mart_load.generic  
etl/generic/EC2_m10_s050_mart_prune.generic
```

mart/ddl/ec2_mart_drop_schema.generic
mart/ddl/ec2_mart_schema.generic
misc/wtdwfilter

5.0 カスタマー・サポートへの連絡

資料およびカスタマー・サポートについては営業担当員にお問い合わせください。

6.0 特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM はまたこれらの情報に掲載されている製品やプログラムを何時でも、予告なしに改善 または変更することがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
2Z4A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

商標

IBM、IBM ロゴ、DB2、Informix、Tivoli、Tivoli ロゴ、および Tivoli Enterprise Console は、IBM Corporation の商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。